

第17回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2016. 1. 26 熊山 ともみ

第一三共(株)

『プラリア皮下注 60mg シリンジ』

第一三共(株) 本田 功樹さん

場所：藤沢整形外科クリニック

参加者：太田先生、整形職員さん、熊山 ともみ

み

骨粗しょう症の発病には、加齢や閉経、食事・運動習慣などが深く関わっている。骨粗しょう症の治療薬には主に内服（ビスホスホネート製剤、カルシウム製剤、ビタミン D3 製剤、SERM 等）が使用されるが、通院が難しい患者様や内服が不可能な患者様においては注射剤も選択される。今回は破骨細胞の形成・機能・生存に重要な役割を持つタンパク質（RANK リガンド）を標的とするヒト型モノクローナル抗体のプラリア皮下注について、勉強会を行った。

<効能・効果>

骨粗鬆症

効能又は効果に関連する使用上の注意

本剤の適用にあたっては、日本骨代謝学会の診断基準等を参考に、骨粗鬆症との診断が確定している患者を対象とすること。

<用法>

通常、成人にはデノスマブ（遺伝子組換え）として 60mg を 6 ヶ月に 1 回、皮下投与する。

<禁忌>

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

低カルシウム血症の患者

妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

<副作用>

低カルシウム血症 (0.8%)、背部痛 (0.8%)、 γ -GTP 上昇 (0.8%)、高血圧 (0.8%)、湿疹 (0.7%)、関節痛 (0.6%) など。

<考察>

プラリアは骨粗鬆症治療薬の有効性について骨密度・椎体骨折・非椎体骨折・大腿部近位部骨折の分類においてAを有し、すべての骨折リスクに抑制効果が認められている。投与間隔が6ヶ月に1回といった治療スケジュールも、週1回の自己注射に比較して患者負担が減っていると思わ

れる。プラリアで注意したいのは、骨吸収が抑制されることから、血清カルシウム値の低下が起こることがある。重度の腎機能障害のある患者様や透析を受けている末期腎疾患の患者様では、カルシウムの尿からの再吸収機能及び胃腸管での吸収機能が低下している可能性があり、低カルシウム血症が起こるおそれが高い。そこで血清補正カルシウム値が高値でない限り、毎日カルシウム及びビタミンDの補充が必要とのことだ。薬局では、骨粗鬆症を注射にて治療していることが把握しづらいが、カルシウム製剤やビタミンD製剤がでている患者様へ注射治療の確認を行い、特に腎機能が低下している患者様へは低カルシウム血症の初期症状（痙攣、しびれ、失見当識等の症状）がないか注意が必要と考える。

<質問>

投与制限はあるか？

→PTH製剤は1.5年～2年としばりがあるが、プラリアは投与制限なく使い続けることが可能。